真明

発行所
天理教芦津大教会
〒546－0003
大阪市東住吉区
今川8丁目6番32号
電話 06（6702）1980
FAX 06（6700）1854
Eメール shinmei@ashitsu.or.jp
印刷所　天理時報社

親里で過ごし、学ぶ幸せ

３年ぶりに開催された「学生生徒修養会・高校の部」。朝づとめ参拝を終えた学生たち

今夏、親里では「学生生徒修養会・高校の部」が開催されました。若いときに親里で過ごし、お道を通る仲間と触れ合うことは、楽しい思い出とともに、自分の信仰を確かなものにするための貴重な体験となるでしょう。さらに親里の学校に進学すれば、学校生活の中で教えを実践する機会があります。節に遭えば、心のほこりを払い、喜びを探すよう、周囲から助言を受けることもできます。何より「信仰を同じくする仲間がたくさんいる」という環境は、親里の学校でしか経験できません。こうしたお道の雰囲気の中で、考え方の基本や信仰姿勢を身につけ、将来道を通る上でかけがえのない仲間ができるのです。

困ったときやつらいとき、神殿、教祖殿に足を運ぶことができるのも、親里の学校だからこそ。たとえ親元から遠く離れていても、実の親である親神様、教祖がいつもそばにおられます。そして「神様はおられるんだ。教祖は御存命なんだ」と、親の存在と親心を実感することで、親里が「第二の故郷（ふるさと）」となるのです。

親里で道の仲間と共に学ぶ幸せを、一人でも多くの若い方に実感していただきたいと思います。

全教一斉にをいがけデー

身近な人へ御教えを伝えよう

9月28日（水）29日（木）30日（金）

四方正面

ある日曜日の月次祭、前半下りが始まると同時に、いつもと違うよろづよ八首を唱和する声が聞こえてきた。少年会員が横一列に並んで座り、中心となって歌う子をまねするかのように、仲良しの友達同士で一生懸命に唱和していた。参拝場はとても和やかな雰囲気となり、そんな素直で純真な子供たちが、将来立派なようぼくに育ち、教会でおつとめを勤めてくれる姿を想像すると、とても楽しみである。同時に、育成者である大人の姿は重要だと改めて感じた。

子は親の背中を見て育つというが、みかぐらうたに、

さんざいこゝろをさだめ
一下り目　三ツ

と教えられる。

素直で純真な心で、世界の混乱の収まりや身近な方の身上、事情のたすかりを願い、一層教祖にお喜びいただける心で、日々おつとめを勤めさせていただきたい。（洋）

《7月月次祭　挨拶》

信仰に目を向けるきっかけを若い世代に

大教会長　井筒梅夫

皆様方には日々信仰の道にお励みくださり、また時旬の御用にご丹精をくださいまして、誠にご苦労様でございます。また今日は出にくい中をご参拝くださいまして、共々に7月の月次祭を恙なく勤めさせていただきましたことは、誠に有り難い次第です。

ご本部の月次祭ですが、先月までは大教会に割り当てられた人数による代表参拝になっておりましたが、『天理時報』や「天理教ホームページ」で既報の通り、今月からは参拝者の昇殿が許されるようになりました。間隔を空けて座ることやマスクの着用、大声での唱和を控えるなどの申し合わせはありますが、コロナ以前に戻る形になります。つまり、本部の月次祭は自由参拝ができるようになったわけですから、年祭活動を迎える今の旬にとっては大変喜ばしいことです。各々の心に、ぢば一条・親一条の信仰を改めて培う上で大いに歓迎すべきことだと思います。

その一方で、コロナが第7波の様相を呈しており、感染が拡大している状況があります。新しく置き換わった株は重症化はしにくいものの、感染力は強いといった報道もありますから、油断せず、ご自身の体調や周囲の状況を見極めた上で、「うつらない、うつさない」、このことを心に置いて感染防止には十分配慮をしてご参拝いただきたいと思います。

さて、来月の28日は、中山大亮青年会長様をお迎えして、青年会芦津分会の御臨席総会を開催いたします。お道の将来を考えますと、若い世代の者たちがこれから先、道の進展の上に勇んで働いてくれるようになることが何より大切なことだと思います。

私が会長になる以前のことですが、若い世代に特徴的なこととして、信仰に対しての懐疑と回心があることを、当時の宗教心理学から学んだことがあります。信仰に疑問を抱いていて離れていくのも、信仰に目覚めて教えに帰依するようになるのも、青年期に起こる特徴的な事象のようです。これを思えば、若い世代の者には信仰に目を向けるきっかけや、信仰的に成人するための機会が必要だと思います。

私事ですが、小学校の高学年から高校までラグビーをやっていましたので、この間はラグビー漬けであったように思います。卒業後の進路は「とにかく東京へ行く」とだけを決めていました。天理教のことは嫌いではありませんでした。むしろ子供の頃からお道のことは好きだったと思いますし、将来はお道を通らなければならないものだと漠然と考えていました。いずれ通らねばならないのだから、今のうちに大いに羽根を伸ばしておこうと考えて、父も祖父も東京の大学へ行っていましたので、それに託つけて一浪までして東京の大学に入りました。「さあ、これから4年間どんなことをしようか」とウキウキとしていた矢先に、学生会活動に出合ってしまったのです。私にとっては学生会が信仰に目を向けるきっかけとなりました。これが親神様の先を見越された上でのお手引きであったことが、後々になって分かりました。

大学時代は学生会活動が面白くなり、天理に帰省する度にお道の本を求めて読むようになりました。また親神様の御守護の鮮や

かさを知るのも在学中です。卒業後は迷うことなく修養科、検定講習会へと進み、青年勤めに本部へ入れていただきました。

しかし、青年勤めを始めて1年1カ月後に、父の出直しというふしに遭遇したのです。私たち家族はもちろん、芦津も悲しみの底にありましたが、その最中、時の青年会長様、現真柱様が大教会へお入り込みくだされて、青年会の御臨席総会を開催させていただいたのです。親の理を戴いて、心に力をつけていただいて、その翌月に私は六代会長の理のお許しを戴いたのです。

この一連の流れを思案すれば、東京に出て好き勝手なことばかりをしていたとしたら、会長就任には信仰者としての成人が間に合いません。親神様は会長就任の日のために、遠い所へ飛び立とうとする鳥を網で捕えるように、私の手を強く握ってお道へ引き戻してくださったに違いないと思うのです。親神様には段取りがあって、この段取りに沿って会長就任へ導いてくださったように思えてなりません。

私自身を振り返って感じますのは、信仰に目を向けるきっかけや成人するための機会を、若いうちに経験することの大切さです。またこうした機会を若い世代に与えることが、先に道を歩む年配者の仕事だと思います。信仰に目を向けるきっかけ、成人の機会は人によってさまざまです。私のように学生会がきっかけとなる場合もあります。修養科やおぢばへの伏せ込みで、信仰に目覚める人や一層の成人を目指す人もいるでしょう。身上や事情を頂いた際に受けたおたすけを通して、という人も多いように思います。

また、以前に教内の雑誌で見ましたが、ある女性が学費が安いという理由だけで天理大学を志願しました。入試で天理に来たときに、親里の街並みに「見たことがある風景だ。確かにここに来たことがある」と感じた彼女は、記憶を辿っていくと、子供の頃に近所の教会から、一度だけ「こどもおぢばがえり」に参加した、懐かしい光景を思い出したのです。これがきっかけとなって、天理大学では信仰サークルに入り、熱心に信仰するようになって、現在は教会長夫人として大変熱心に通っておられます。一度のこどもおぢばがえりがきっかけとなって、お道に手引きを頂かれたのです。

8月28日の青年会長様の御臨席総会は、コロナの状況を鑑（かんが）みて決断をしなければなりませんが、お入り込みいただければ、芦津の若者にとって千載一遇の機会になると思います。中にはこの日が信仰に目覚めるきっかけになる者も出てくるかもしれません。成人の機会になる者もきっとあると思います。私がそうであったように、心に力を頂いて、次への歩みを力強く踏み出してくれる者も出てくるでしょう。私は今回の総会にこうしたことを期待しているのです。

親の理を戴いて晴天、これがこの道の信仰であります。来月の総会は申すに及ばず、これから先も若い世代への丹精に大いに骨を折らせていただき、心をお配りくださいますことをお願いいたしまして、今月の月次祭の挨拶とさせていただきます。

今月の月次祭、大変ご苦労様でございました。

（要約）

《7月月次祭　神殿講話》

教祖年祭に向け 心づくり、理づくりに励もう

役員　山田道弘

下地づくりの年

私たちは真柱様より、来る令和8年、「教祖百四十年祭を勤める」とのお言葉を頂戴し、年が明けると年祭活動が始まります。この時旬において大教会長様は、「今年は、来年から始まる年祭活動へ向けての下地づくりの年。下地づくりとは、『心づくり』と『理づくり』をさせていただくこと」と仰せくだされています。

教祖は、今はお姿こそ拝することはできませんが、御存命のまま私たちをお導き、お見守りくだされています。明治20年陰暦正月26日は、教祖が御自身の定命を縮めてまでも、私たち子供の成人をご期待くだされ、さらに扉を開いて世界たすけにお踏み出しくだされた、忘れえぬ尊い日であり、教祖年祭の元一日であります。

そうしてまで子供の成人をお急き込みくだされた教祖の思いを、私たちが精いっぱい思案し、「私たちは親心にどうやってお応えするのか」を心に定めて年祭活動に励むからこそ、私たちの陽気ぐらしへ向かう成人が進んでいくわけです。

教祖の年祭活動は、私たちがどういう考え方をして、どういう言葉を発して、どういう行動をとって毎日を過ごすことが教祖にお喜びいただけるのかと、真剣に考えて実行に移すことが大切です。

おふでさきに、

いまゝでのよふなる事ハゆハんでなこれからさきハさとりばかりや
十七号　71

このさきハなにをゆうやらしれんでなどふぞしかりしやんしてくれ
十七号　72

これをはな一れつ心しやんたのむで
十七号　75

と、お記しくだされています。

教祖は、現身をお隠しになられる前に、「これまでの五十年にわたるひながたがあるだろう。これから先は、それぞれがしっかり御教えを台に親心を悟り、陽気ぐらしに向かっての心の思案を頼むで」と、おふでさきの筆を擱（お）いてくださっています。教祖に嬉しくお受け取りいただき、お喜びくださる私たちの「心づくり」を、今から準備をするのが、只今の時旬だと思います。

ささいなことに思う親の喜び

私には4人の子供がいます。子供たちが幼い頃、親として嬉しく思ったエピソードがあります。

一つは子供が小学校を卒業する時のこと。双子の二男、三男の卒業式に行きました。式が始まる前、控え室になっていた子供たちの教室へ入ると、そこには卒業制作の習字や絵画が壁に貼られていて、机の上には手作りのオルゴールが飾られていました。そのオルゴールを開けると、きれいな音色が聞こえて、中には「お母さんへ」と題した手紙があり、「お母さん、6年間、いつも美味しいお弁当をつくってくれてありがとう。毎日車で学校へ送ってくれてありがとう。たくさん感謝しています」という内容の文章が並んでいました。

また、長男がまだ小学校1、2年生の頃、明日から私が大教会へ出かけていく日の夜、荷物を整理しようとかばんを見ると、そこにおやつが置いてあり、「食べてね」と小さなメモが貼ってありました。お父さんが明日からご用に出かけていくと思って、「頑張ってね。いってらっしゃい」と気を遣って、とっておいたおやつをプレゼントしてくれたんだなと、嬉しくて涙が出ました。実はこの時の小さなメモを、私は今でも財布の中に入

れて持ち歩いています。

ささいな話ですが、子が親を思ってお礼を言ったり、心を遣ったりすることができるようになる。親にとってこんなに嬉しいことはありません。

親神様、教祖は私たちの親ですから、やはり同じだと思うのです。親の心を一生懸命に思案し、感謝ができるようになるということは、親孝行の第一歩と言えるでしょう。親心を感じるから感謝ができる。感謝の心が湧いてくるからお礼が言える。そのお礼を具体的に表すことが御恩に報いる道となり、親はお喜びくださるのだと思います。

心一つで陽気づくめに

**人間というは、身の内神のかし
もの・かりもの、心一つ我が理。**
明治22年6月1日

とお聞かせいただきますが、頭では分かっていても、つい日常の忙しさにまぎれ、日々の結構さに慣れて「当たり前」に過ごしていることも多いと思います。

**たん〳〵となに事にてもこのよふわ
神のからだやしやんしてみよ**
三号　40

**にんけんハみな〳〵神のかしものや
なんとをもふてつこているやら**
三号　41

とありますように、お互いが日々結構に暮らしているのは、みな天地抱き合わせの親神様の懐に抱かれ、温かい親心に守られているからであって、世間の常識では、誰しもが自分のものと思っているこの身体は、実は親神様のかしもの、親神様からのかりものなのだと聞かせていただきます。自分のものというのは心だけ、とお教えくださいます。

人間は「心一つが我がの理」を使い誤り、「よく」や「ほこり」の心から自分の考えを基準にして物事を考えて、つい気まま勝手な心遣いになりがちです。そんな私たちに、

**しんちつが神の心にかなハねば
いかほど心つくしたるとも**
十二号　134

**なんぼしん〴〵したとても
こゝろえちがひはならんぞへ**
六下り目　七ツ

と、神様の心にかなう心遣いで通ることが大切であり、いくら形の上で信仰しているように思っていても、教えに違う心で通っていてはいけないと諭されています。

以前、真柱様は、

「神一条の心とは、自分の心だけを基準にして物事を判断するのではなくて、親神様の教えを元にして物事を判断できるような心である」「自分の心を教えに沿うように治め、自分の心を勇ませるような心掛けをしていくということが大切」「陽気づくめの心とは、何を聞いても何を見ても、喜び勇む陽気あふれる心遣いだと教えていただく」という内容のお話をしてくださったことがありました。

お互いに、今、自分の周りにある与えをしっかりと喜ばせていただき、その与えに感謝して、陽気づくめの心で、御恩報じの行いを実行することが信仰の道です。全ては、親神様が自分の心通りに、ちょうどいい結構な与えをくだされていると悟って、陽気づくめの心にならせていただくことが、陽気ぐらしへの私たちの成人の努力と歩みなのだと思います。

たすけたいとの親心

おふでさきに、

**月日にハせかいぢう、ハみなわが子
たすけたいとの心ばかりで**
八号　4

とありますように、私たちの親は「たすけたい」との心ばかりと仰せくだされています。だからこそ、本来のお互いの心通りでは、到底頂戴できるはずもないような大きな御守護も、「たすけたい」との親心から、私たちのほんのちょっと

の努力や、ささやかながら親に喜んでもらおうとの気持ちを大きく大きく受け取ってくださり、身に余る御守護を頂戴しているのです。ですから、「親神様は人間の親である」「教祖が御存命でお導きくだされている」という点を信じて通ること。御教えを心の芯に据えて、自分の心を親にお喜びいただける「陽気づくめの心」につくり変えていく努力が、心づくりのポイントだと考えます。

御教えを台に考え方を改めて、不足を言わず、愚痴を言わず、今を喜んで、先を楽しんで、徳いっぱいの与えという御守護に感謝を申し上げられるお互いにならせていただけるよう、心づくりに励ませていただきましょう。

理づくりとは

ある部内教会の娘さんが、一般の人と結婚しました。旦那さんは別席を運びようぼくになり、家を建てて神様を祀って講社祭も毎月勤めてくれ、本当に一生懸命お道の御用を勤めてくれています。しかし、信仰初心者ですから、私たちが当たり前に口にする「お道の言葉」にも分からないことがたくさんあります。

ある時、「会長さん、皆さんの会話によく『理』って言葉が出てきますが、何となくは分かるんですが『理』って一言でいうとどういうことですか？」と尋ねてきました。私は「『親神様の御守護に通ずる道筋』だよ」とお伝えしました。

つまり「理づくり」とは、「親神様の御守護に通ずる道筋をつくること」ということです。

私たちの成人に欠かせないことに、伏せ込みと徳積みがあります。草引きや掃除などのひのきしん。神名流しや路傍講演などのにをいがけ、教会への日参など、いろいろな形がありますが、その一つにお供え、おつくしがあります。

考えると、日頃当たり前に健康な生活を送っている中には、お金で換算すると、どれ程の金額になるでしょうか。とても一生かかっても払い切れるものではないほどの、大きな御守護を親神様から頂戴して、私たちの当たり前があります。その御守護を御恩と感じて心に治めるからこそ、御恩に少しでもお報い、お応えさせていただこうと、感謝の心からなるひのきしんの態度になるわけで、そのひのきしんの心を形に表わした、一つの真実の形がお供えやおつくしなのです。

にち〳〵に心つくしたものだねを
神がたしかにうけとりている
しんぢつに神のうけとるものだねわ
いつになりてもくさるめわなし
たん〳〵とこのものだねがはへたなら
これまつだいのこふきなるそや
おふでさき号外

とお聞かせいただくように、お供え、おつくしは、末代続く喜びの台となるとお教えいただいています。「お供えは伏せ込み」とお聞かせいただき、また一つには、願う御守護を頂戴する上には、大きな理づくりとなります。

私たちは旬々にご用を頂戴します。旬というものは、親神様が定めてくださいますので、そこに私たちが心を合わせていくところに、たすかる道があるのです。

伏せ込みは先の楽しみの物種であり、大きな徳を積ませていただく理づくりになるわけですから、時旬の上からのご用を大切に、素直な心と低い心で真実を尽くすことが、お道のお供えです。

理の仕入れを

以前に大教会の世話人であった本部員・山本義和先生からお仕込みいただいた中に、「理の仕入れ」というお話がありました。

例えば、八百屋の看板を出している店では何を売るのかというと、野菜を売っている。ではその売り物である野菜はどうするのか。市場から仕入れ、仕入れた野菜を店頭に並べて売るわけです。

教会をこうしたお店に例えて、「天理教○○分教会」という看板の元、何を人々にお届けするのか。それは、教会はたすけ一条の道場ですから、人様に陽気ぐらしの種を売り、人様に御守護の理を頂戴していただくことだ、とお話しくださいました。

考えてみれば、おさづけのお取り次ぎにしても、お願いづとめに身上や事情のおたすけを願うにしても、私たち人間の力でたすかっていくわけではありません。親神様の十全のお働き、教祖の大きな親心にお抱えいただいてこその御守護です。

「教会の月次祭に参拝したら御守護いただける」「日参をさせてもらいなさい。必ずたすけていただける」と、人様にお伝えしても、教会に親神様の御守護を頂戴できるだけの理が、御存命の教祖にお働きいただけるだけの理がなければ、たすかるものもたすからない。

ですから、しっかりと理の仕入れをさせていただく。そして、仕入れてきた理を並べて、心一つにその理をお届けする。

それは、教会で言えば、上級、大教会、おぢばへしっかりと真実を運び、たすけの理を頂戴すること。教会に繋がるようぼくは、しっかりと所属の教会に繋がって、心一つに、にをいがけ・おたすけに励ませていただくことです。

お互いが頂戴している御守護への感謝を忘れず、ひのきしんの態度と心で真実の伏せ込みを通して、親神様の御守護へと通ずる道筋をつくる「理づくり」に励ませていただきたいと思います。

三年千日を丸ごと勤める

教祖百四十年祭の年祭活動が、いよいよ来年から始まります。

今年はその準備をさせていただく大切な年として、残りの下半期も「心づくり」「理づくり」に勤めさせていただきましょう。

親は、子供がほんの少し感謝をした姿をも、大きくお喜びくだされます。

これをはな一れつ心しやんたのむで　**十七号　75**

との教祖の御期待に沿えるよう、年祭活動三年千日を丸ごと勤めさせていただいて、共々に成人の歩みを進めさせていただきたく存じます。

（要約）

立教百八十五年　七月月次祭祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に、天理教芦津大教会長井筒梅夫、慎んで申し上げます。

親神様には子供可愛い一筋の親心から、十全の御守護を以て昼夜を分かたずお護り下され、成人への道をお連れ通り下さいまして、陽気ぐらしへとお導き下さいます御慈愛の程は、誠に有り難く勿体ない極みでございます。私共は、日日感謝と報恩を心に湛えて、たすけ一条に努め励ませて頂いておりますが、その中にも今日のこの日は、おぢばより当大教会にお許しを頂きました月に一度の尊き日柄でございますので、只今から、役目にあずかる者一同心勇んで座りづとめ、陽気てをどりを勤めて、七月の月次祭を執り行わせて頂きます。御前には厳しい暑さの中も、今日を大切な日と参らせて頂きました芦津の道の子達が、日頃賜る御恵みに御礼申し上げ、人々のたすかりと世の治まりを祈念して、共につとめの理に沿い切る真実の状を御照覧下さいまして、親神様にもお勇み下され、道の進展の一段と勇んだ足取りを御守護下さいますよう御願い申し上げます。

さて、今月の二十六日より来月の二十八日まで、親里においては子供達の受け入れのために各種行事を催して下さいます。そして八月二十八日には、中山大亮青年会長様を大教会にお迎えして、青年会の御臨席総会を開催させて頂きます。斯くの如く次世代育成の旬にあって、私共をはじめ、教会長、ようぼくは、各々がひながたの道を素直に辿り、身近な所から御教えを伝え、縦の伝道に真心を尽くし、道の将来を担う世代に信仰の喜びを映して、滞ることなく道の歩みを進めていく所存でございます。

何卒親神様には、道のために尽くす誠真実を大らかな御心にお受け取り下さいまして、末代続く頼もしき道をお連れ通り下さいますよう御守護の程を、一同と共に慎んで御願い申し上げます。

学生会キャンプ

芦津学生会（武波直輝委員長）は、7月17日にさんさいの里でデイキャンプを行った。

この日は午前9時から「学生参拝デー」を実施。本部神殿で参拝した後、さんさいの里へ移動した。野外ゲームやバーベキューを楽しみながら、仲間との交流を深めた。夕方からは少年会川之江団と合同でキャンプファイヤー。学生たちは出し物にも挑戦し、楽しい時間を過ごした。

なお、前日夜には詰所で交流会を催し、花火などで楽しんだ。参加者は大学生10名、高校生5名、計15名だった。

フリスビーゴルフを楽しむ学生たち

詰所でこども食堂開催

芦津詰所は、7月18日、初めてのこども食堂を開催した。

「同じ地域に住む子供たちの健康と心の支えになりたい」との思いから始めたもので、こども食堂をきっかけに、地域の方との信頼関係を築き、おたすけに繋げていくことを目指している。

この日は11時30分からスタート。事前に申し込みのあった唐揚げ弁当42食を配布した。また一般社団法人Ｅｓより規格外野菜の提供があり、水菜、チンゲン菜、小松菜を来場者に無料で配付した。

本部勤務者も休みを利用してひのきしんに

七月月次祭　祭典役割

祭主	大教会長	扉者	奥田眞治	扉者	瀧本庄司		大教会長 井筒敏成 湯川正圀 会長夫人 前会長夫人 瀧本晶子	座りづとめ
指図方	井筒文夫	賛者	石川健郎	賛者	川畑正博		奥田正德 川畑澄博 西本義之 吉田幸子 梶川りよ子 松森明美	前半
献饌長	守田清一	伝供					樋川泰士 花岡忠和 村田光伸 竹内淳子 中村寿々代 花岡由紀子	後半

地方	瀧本眞二郎 守田清一 竹内義忠	笛	加世田洋	ちゃんぽん	奥田眞治	琴	奥田富美子	
	山本義範 葭内浩 石川健郎	拍子木	井筒文夫	三味線	中村美津代		河合遊喜恵	
	奥田正儀 新居里実 西本興正	太鼓	岩切正教	胡弓	井筒ちぐさ		川畑祝子	
		すりがね	岡島秀男				望月恵美	
		小鼓	岩切正義				西本美智恵	
			瀧本庄司				岩切治代	
			榎康紀				河合ふみ子	
			木村真次					
			河端芳雄					
			浜田宣郎					
			吉田裕和					
			梶川芳男					
			湯川正信					
			岡本久昭					
			瀧本一太郎					
			河合善洋					

在籍者一同

おぢばの夏に子供たちの笑顔が戻る

夏休みこどもひのきしん　親里の受け入れ

この夏、少年会本部より、ひのきしんを通して信仰の喜びを味わってもらいたいとの思いから「夏休みこどもひのきしん」が提唱されている。

親里では、7月26日から8月28日まで神殿西側に「ひのきしんセンター」が設けられ、おぢばがえりをした子供たちが、廻廊拭きや境内地の清掃ひのきしんなど、教えを実践する機会が用意されている。また神殿周辺各所では、「ピッキー広場」「おやさと謎解きウォークin参考館」「ほんわかシアター」「ピッキーとリボンの宇宙体験」など、子供たちが楽しめるようなアトラクションが準備されている。さらに土曜日、日曜日には神殿前で「特別企画鼓笛お供演奏　鼓笛オンパレード」が行われ、賑やかな鼓笛の音色が響いている。

詰所では、夏休み期間中、玄関ホールをピッキーやリボンのイラストなどで装飾。詰所勤務者や学生会の有志が、射的やスーパーボールすくいなどのゲームや、かき氷を振る舞うなどして、子供連れで帰ってきた家族を楽しませている。

☆　☆　☆

8月5日から6日にかけては、少年会浪華浦隊が、少年会員9名、育成会員9名の計18名で帰参。

引率した高馬丈典さんは、「ご本部でいろいろと企画してくださっているので、子供たちへの繋ぎのために、信者家庭にまで広く声をかけました。参加した親御さんは、おぢばで子供たちが楽しんでいる様子を見て、『またいろいろな行事に参加したい』と喜んでくれました。これをきっかけに、教会活動をさらに充実させていきたい」と語った。

詰所では射的などのゲームで楽しんだ

ひのきしんセンター前で記念撮影

青年会御臨席総会に向けて

青年会芦津分会（井筒敏成委員長）は、8月28日に迎える、青年会長様御臨席芦津分会総会に向け、大教会各所の準備のひのきしんを行っている。

7月は、西本興正・本氣分教会長の主導で、青年会総会当日に青年会長様にご利用いただく予定の真柱室の浴室改修、8月からは、大教会内の剪定ひのきしんを実施。炎天下の中、青年会常任委員を中心に、青年会長様をお迎えさせていただくことを楽しみに、勇んでひのきしんを行っている。

今後も、御臨席総会までの期間で、高圧洗浄機を使っての外壁洗浄、正面階段の清掃を行う予定。

大教会外壁周辺の剪定ひのきしん

会長室報

青年・女子青年勤務辞退

加藤　仁（鳥　栖）
加藤　仁望（鳥　栖）
立教185年７月26日

教務部報

教会長資格検定合格

松森　誠太（明　道）

立教185年７月17日教会長資格検定講習会第123回を修了し、翌18日検定合格されました。

教人登録

北村　真彦（芦　姫）
北村　健治（芦　姫）
立教185年７月１日

教人講習会第123回修了

井筒さちえ（直　轄）
與　正人（名瀬港）
與　相子（名瀬港）
立教185年７月11日

修養科第971期修了

久保加代美（大　棚）
立教185年７月27日

おさづけの理拝戴《６月》

徳野　真弘（紀　周）
山本　優子（直　轄）
瀧本　光流（富　島）
竹内　理彦（稗　島）
沢田　和訓（　靱　）
〈拝戴日順　５名〉

初席《６月》

〈１名〉髙清・芦島鶴・鷺洲・芦姫
〈順序運びより　４名〉

月例統計（自令和４年１月１日～至令和４年６月30日）

項目 / 名称（）内教会数	初席	のお理さ拝づ戴け	修養科修了	教人
大教会（1）	9	10		
靱（13）		1		
東津（23）	1	2	1	
吉野川（29）	1	1	1	1
島原（16）	6	1		
日方（15）	3			1
稗島（7）	2	1		
本津（2）				1
日高（2）				
姶良（5）				
津和（12）		1		
門司（6）	1	1		
當別（6）	1			
大島（26）		1	1	
沖縄（3）		1	3	
尼崎（2）	1			
四ツ山（5）		1		
大冠（2）				
島下（1）				
天保山（3）		1	1	
青木（1）				
芦浪（1）		1		
甲邊（1）	1			
芦華（1）				
天津（1）				
入江（1）				
豊野（1）	1			
紀周（3）	1	3	1	
勝明（1）				
神の島（1）				
兵庫眞洲（1）		2		
芦ノ郷（2）				
本明勇（2）				
明道（1）				
芦東（1）				
和鎮（3）	1			
神滝本（1）				
芦明徳（1）	1			
真明彰化（2）				
本氣（2）				
芦明照（1）				
真伯（1）				
合計（209）	30	28	8	3

おやさとふしん青年会ひのきしん隊
９月入隊者大募集！

入隊日：９月２日（金）３日（土）
９月９日（金）10日（土）
９月16日（金）17日（土）

９月19日（月・祝）は家族で入隊可！
夫婦で親子で楽しくひのきしん！

入隊御供：１日500円

集合解散：初日８時詰所集合
２日目16時頃解散予定
※１日だけの入隊も可能です

お問合せ：06-6702-1980
担当　青年会常任委員 松森誠太まで

第２回 芦津学生会総会

～つながろう！ 芦津の若者よ！～

10.16日

午前10時開会
午後３時解散